

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「いつも明るくのびのびと」いう理念の下、地域の中で自分らしさを保ちながら、明るく楽しく生活できることを目標としている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>業務上必要に応じて職員に話しているほか、職員の目の届くところに、内容を記した関連書物を設置している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>訪問者や家族に見えやすい玄関に理念を掲示している。また、運営推進会議や面会時わかり易く話している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>町内会長や民生委員に呼びかけ、町内の行事を教してもらい参加するようにしている。(敬老会やねぶた祭り見学、寄付など。)また、近所を散歩し挨拶している。中学生の介護ボランティアの受け入れを行っている。その際は、写真撮影等行っても、正面から顔が映らないよう考慮している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義としては現状の問題点と改善効果の機会となる事、また利用される方が希望の施設を検索できるようになる事と理解している。スタッフにも会議の際や日々伝えておりスタッフからの意見を組み入れている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、日々の生活状況や問題点、取り組みなどを話したり意見をもらっている。外部評価の結果は見やすい場所の掲示しており見てもらったり、説明している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には書類等（介護認定関係書類の情報公開、入退去の届出書類）の提出にて市役所へ行くことはある。その際に担当の方から情報をもらうことはある。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修には参加するようにしている。（管理者は以前外部研修を受けている。）全職員が十分理解しているとはいえない。利用されている入居者の方はいるが家族が全て行っている為、家族から情報をもらっている。	○ 外部研修の伝達講習など内部研修の機会。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修には参加するようにしている。（管理者は以前外部研修を受けている。）職員の日々のケアの提供場面や利用者の身体状況など常に観察している。	○ 外部研修の伝達講習など内部研修の機会。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書ををわかり易く説明しながら同意を得てる。家族本人の意向や疑問点、不安な点を尋ねている。入居後もその都度話を聞くようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも記載しており、説明時にもどこへ苦情を伝えればよいかグループホーム以外、市役所や国保連の電話番号等記載してる。また、個別に話を聞く時間を作っている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話にて利用者の状況を報告している。管理者の変更の際はすぐ連絡しているが、職員の交代の際は面会時に気づいた際には報告するのみである。金銭預り証を用い、使用用途を説明し領収書を添付し確認してもらっている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも記載しており、説明時にもどこへ苦情を伝えればよいかグループホーム以外、市役所や国保連の電話番号等記載してる。また、面会時や電話にて個別に話を聞く時間を作っている。要望があった際はスタッフ全員に情報が伝わるようにしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を管理者が聞き、事業所内で変更や改善できる点は会議にて決定している。事業所内で改善できない点はリーダー会議や本部に相談する。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は（早番、日勤、遅番）の3名、夜勤者は1名となっている。外出行事などケアスタッフが必要な際は必要に応じてスタッフを増やしている。（当事業所スタッフや他の事業所からの応援もあり）職員の急な休みに対しても勤務変更による当事業所のスタッフによる変更や他事業所からの応援もある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動はあまりないが、個人的な事情などにより変更せざる終えない場合は、引継ぎを十分行うとともに、利用者への説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加への促しや参加後の報告書を作成している。	○	職員を中心とした内部研修の充実
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加するようにしている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務に関する事は耳を傾けて解決できるように配慮している。また、事務室を兼ねた休憩室を確保している。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年一回の健康診断を行っている。また、資格取得により責任のある役職への昇格あり。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者、家族からの相談ある場合は担当者が訪問あるいは来所にて話を聴く事になっている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込みや介護保険の申請等、行えることであれば行う。すぐ対応できないことは関連機関への連絡や情報を伝える。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の生活状況や意向を十分に家族・本人から聞いたうえでサービス利用できるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活状況や意向を十分に考慮した上で、行動や言葉を理解するようにしている。コミュニケーションを十分図り不安の軽減に努め、得意分野で力を発揮できるよう簡単な作業から行ってもらるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時家族の話をよく聴くようにしたり、生活状況を伝えるようにしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの生活状況の情報や家族・利用者の話から双方への思いを把握するようにしている。誤解がある場合は仲介に入り、誤解が解けるよう努力している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙が出せるように支援している。希望に応じて外出している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を日々理解している。口論にならないよう仲介に入ったり、日々の言動に気をつけている。場合によっては席替えを行っている。孤立しないよう、仲良くできるよう会話作りに努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も相談がある場合は受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の話や情報用紙、家族からの情報により把握に努めている。また、カンファレンスの開催や申し送り等の日々の業務の中で話し合っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の話や情報用紙、家族からの情報により把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の話や情報用紙、家族からの情報により把握に努めている。また、日々の生活状況を申し送りや記録から情報を得、現状を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人からの意向、居宅支援事業所からの情報提供、介護認定調査書、主治医の意見書、スタッフの気づき、訪問看護師の意見を参考にしアセスメントした後、介護計画書を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新の際や身体状況・精神状況の変化に伴いケアの見直しが必要な際には本人、家族、スタッフと話し合い介護計画の見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を日々の暮らしアセスメントシートに記入、また支援経過を記入している。個人ファイルを全職員が見ることができ、情報を共有できる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの方が来訪しコーヒーを入れてくれたり、大正琴を演奏してくれている。消防署の方に協力してもらい避難訓練の実施。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今までのそうした意向や必要性がなかった。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今までのそうした意向や必要性がなかった。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族、介護支援専門員より情報を得、受診状況を把握している。かかりつけ医に入所後も通院できるよう援助しており、状態変化があった際は家族へ報告、意向を確認している。また、体調変化時は受診、あるいは電話にて医師に連絡することもある。</p>	
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者それぞれの担当医に相談し、指示、助言をもらっている。</p>	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同グループ内の訪問看護ステーションとの連携体制があり、毎週訪問している。また、24時間連絡体制が整えられている。また、管理者は看護師である。</p>	
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>随時相談し行っている。</p>	
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時、重度化や終末期の方針についての説明を行っている。その際、事業所としての対応可能なこと、困難なことを具体的に話している。入院した際は予後や状況について家族と共に医師からの説明を受け、話し合うようにしている。</p>	
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>その時の状況に応じ、医師の指示のもと対応可能である場合は検討していく予定。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>自宅からグループホームへの環境の変化によるダメージを予防する為、声掛けを十分行うなど配慮をするようにしている。家族にもその事を説明している。他の施設に移る際は情報提供や話し合いの時間を作っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の性格や生活歴に合わせた接し方を行っている。排泄の失敗の際など、他利用者にわからないようにするなどの配慮を行っている。個人情報のファイルは事務室に保管しており、事務室に人がいない際は鍵をかけている。利用者の対応について職員同士気づいた点は会議の際話し合うようにし改善できるよう努力している。</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々の理解力や表現力に応じ、自己決定できるものを選択している。また、話しやすい雰囲気をつくり時間をかけてゆっくり話せるようにしている。(お菓子を選んでもらう、洋服を選ぶなど。)</p>		
	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>訴えがある時は時間をかけてゆっくり聞くようにしている。朝眠くて起きれないときは朝食の時間を遅らせ食べてもらうこともある。日課として行っている事も体調によりやりたくない時は行わないようにしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望により訪問美容師にカットしてもらったり、白髪染めを行っている。なじみの店がある場合は送迎も行うことが可能である。身だしなみが整っていない場合は気づいた時点で直している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
b			
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できる入居者には一部お小遣いを管理してもらい、買い物の際は支払いを行ってもらっている。できない入居者に関してはホームで預かっている。管理できなくてもお金がないと不安に思う入居者に対しては家族と相談し500円～1000円位の範囲で本人に持ってもらっている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、花摘みなど天候に注意し外出機会を作っている。歩行状態に応じ、距離を考えたり車椅子、シルバーカーを利用している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	水族館や立ちねぶたの館、お花見、紅葉狩り、自宅など2ヶ月に一度ぐらいは出かけている。行ってみたい場所など日常の会話の中から聞き出している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時にダイヤルするなどの援助をしている。一人でかけることのできる入居者はいつでも自由にかけることができるようにしている。手紙を投函したり、届いた手紙を本人に直接届けるなどしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に自由に来れるよう明るい雰囲気や声掛けに気をつけている。お茶を飲んだりお菓子を食べたりしながら、ゆっくり話せるようにしている。個室で会話したり、他の利用者とも一緒におやつを食べたりしながらくつろげるようにしている。宿泊用の布団や食事の提供もあり、宿泊される家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的に行為」を理解しており、身体拘束は行っていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	応急手当や救命救急の訓練を定期的に行う。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	夜間を想定した避難訓練の実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や電話にて説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	身体状況は個人のファイルにて情報共有している。毎日、バイタルチェックや顔色、様子を注意、観察しており、異常を感じた際は管理者や訪問看護師へ相談することとなっている。必要な場合は受診援助行っている。記録も行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個人ファイルに綴じてあり、情報を共有している。個人の薬を日付、朝昼夕など分類し記入する。更に当日分を個人別に仕分けた箱に入れ、入れたスタッフとは別の職員2人が内容があっているか確認。再度、与薬の際日付、名前を確認することとなっている。薬の変更がある場合は申し送りをすると共に、連絡ノート、業務日誌、個人ファイルに記入する事で情報を共有している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を用い、状況を把握している。また、自身で排便があったかどうかわからない入居者や忘れてしまう人に関しては、排泄の後、気をつけ観察するようにしている。また食事摂取状況や腹部の状況も合わせて観察している。できるだけ薬の使用は避け、水分量や食物繊維の多い食べ物を摂るよう気をつけている。散歩など体を動かすことも促している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行うよう声掛け誘導、介助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その季節に合ったものをバランスよく食べれるように、各職員が配慮し調理している。以前はカロリー計算を行っており1400~1600カロリーにしていたが現在は行っていない。食事量を記録しており、摂取量の低下が見られる入居者に関しては原因を検討し、捕食したりしている。水分量は一日1500~1800ccを目安にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防や対応について話し合い、マニュアルを参考に実行している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具の消毒を毎日行っている。食材の期限を確認したり、開封日を記入するなど新鮮なうちに摂取できるようにしている。冷蔵庫の掃除、消毒を月に一回行っている。在庫をみて、週3回注文し食材を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には草木を置き、畑作りも行っている。玄関に季節感のある置物を置くなど家庭的な雰囲気作りの配慮をしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気となるよう配慮している。居間（食堂）にはソファ、テーブル、イス、コタツなどを設置しくつろげるようにしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツやダイニングテーブルの他、窓際に椅子を置いたり、ソファがあることより、思い思いの場所で過ごすことができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具や生活用品、装飾品、位 牌、仏壇などが持ち込まれている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常時温度を確認し、適温を保つよう温度調節して いる。また、換気扇や窓を用い換気している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下やトイレへ手すりの設置をしている。風呂場 では滑り止めや浴槽てすりを使用。洗面台の高さ を調節し工夫している。室内は歩けるが外は歩け ない入居者や体調の変化により歩けなくなる方の 為に車椅子を用意しており使用している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレにわかりやすい表示をしたり、自室がわか るように似顔絵や飾り物を飾っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	建物脇に畑を作っている。夏期間は椅子とテーブ ル、パラソルを外に出してくつろげる様にしてい る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)